

1. 事業事前評価表

事業事前評価表（技術協力プロジェクト）

<p>1. 案件名 タイ・HIV/AIDS 地域協力センタープロジェクト</p>
<p>2. 協力概要</p> <p>(1) プロジェクト目標とアウトプットを中心とした概要の記述 タイ・マヒドン大学アセアン保健開発研究所（AIHD；アセアン人造りプロジェクトの施設）は、タイのエイズ対策の知見やリソースを活用し、周辺 4 カ国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）のエイズ対策分野での人材養成を支援するセンターとして機能することを目的として、その中に HIV/AIDS 地域協力センター（RCC）を設置した。本プロジェクトは、RCC の設立に関し、①RCC の運営能力強化、②各国のニーズにあった研修モジュールの開発と実施を通じた改善、③情報データベースの構築と情報発信、④ネットワークの強化によるリソースの有効活用、に対し支援を行い、RCC が内外の関係機関から認められるようになることを目指す。本プロジェクトにより RCC の基盤が整備された後には、RCC は援助機関や周辺国政府から活動資金を獲得し、活動量を拡大するとともに、他の地域への展開を図り、AIHD は、「RCC を通して、タイ周辺国およびその他の国々でエイズ対策に携わる人材の能力を向上させ、HIV 感染率の減少と感染者の生活の質の向上に貢献する」という長期目標に向けて、段階的に体制作りを行う戦略である。</p> <p>(2) 協力期間 2005 年 4 月から 2008 年 3 月（3 年間）</p> <p>(3) 協力総額（日本側） 2.8 億円</p> <p>(4) 協力相手先機関 タイ・マヒドン大学アセアン保健開発研究所（AIHD）</p> <p>(5) 国内協力機関 エイズ予防財団 等</p> <p>(6) 裨益対象者及び規模、等 プロジェクトの活動に関わる AIHD 職員（約 15 名）、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムからタイ国内で実施される研修に参加する研修講師約 280 名および周辺 4 カ国のエイズ対策従事者</p>
<p>3. 協力の必要性・位置付け</p> <p>(1) 現状及び問題点 タイでは世界的な感染拡大に先駆けて 1990 年代に HIV 感染が急速に拡大した。感染拡大に伴い、タイ政府は日本を含む他国政府や国際援助機関からの支援を受けながら、エイズ対策を強化してきた。その結果、タイは現在では感染拡大の減少に成功した数少ない国として広く認知されている。</p> <p>一方、周辺のカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムではタイに比べて HIV の感染拡大は遅く、エイズ対策も遅れている。各国政府はエイズを国家の社会経済開発上の脅威として受け止め、国際支援を活用しながらエイズ対策を強化している。しかし、これらの国々では、急速に増加しているエイズ対策事業を効果的に行う人材が十分であるとは言えず、地域での活動を担う人材の能力向上が必要になっている。</p> <p>本プロジェクトの実施機関となる AIHD は、1982 年にアセアン人造りプロジェクトの一環として日本政府の支援で設立されて以後、プライマリヘルスケア、保健分野のマネジメントなどの研修コースを整備し、第三国研修を実施するなど国内外で高い評価を受けている。最近</p>

ではエイズ対策分野での調査・研究や研修事業を積極的に実施しており、これまでの保健分野での研修経験やネットワークを活用して、エイズ対策分野での人材養成にも貢献することが期待されている。

(2) 相手国政府国家政策上の位置付け

タイ政府は「エマージング・ドナー」を標榜し、特に周辺国への開発支援を推進しており、エイズ対策での支援に積極的である。

対象となるタイ周辺各国政府はエイズ対策をタイの経験から学ぼうとしており、JICA-ASEAN 地域協力推進会議を通じて、JICA 事業を活用したタイからの協力要請を提出している。

(3) 我が国援助政策との関連、JICA 国別事業実施計画上の位置付け（プログラムにおける位置付け）

現在、国別事業実施計画および対タイ協力については協力プログラムの再編を行っているが、想定される改編後プログラムのうち、本件は日タイ合同で周辺国支援を行う「近隣開発途上国支援」プログラムの中に位置付けることができる。

4. 協力の枠組み

〔主な項目〕

(1) 協力の目標（アウトカム）

① 協力終了時の達成目標（プロジェクト目標）と指標・目標値

RCC がカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムにおけるエイズ対策のための人材養成を支援する地域協力センターとして機能し、関係機関から認められる。

<指標・目標値>

- ・ プロジェクト協力期間中に、周辺対象 4 カ国からの参加者を対象にした研修が他の機関の委託により 4 回以上実施され、研修委託機関・研修受講者の満足度、理解度、研修成果の利用度が高い。（注：4 カ国各 1 回を想定した数値）
- ・ RCC のウェブ上のホームページへの年間アクセス数、利用者登録数
- ・ ニュースレター（電子配信を含む）の読者が提供される情報に満足する

② 協力終了後に達成が期待される目標（上位目標）と指標・目標値

カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムにおいて、RCC から提供されるリソースが活用され、エイズ対策に従事する人材が各国のニーズと状況に基づいて育成されエイズ対策が改善される

<指標・目標値>

- ・ 研修受講者の 70% が本国で最低 1 回の研修を実施する
- ・ 研修受講者が講師を務める研修の参加者の満足度、理解度、研修成果の利用度が高い

(2) 成果（アウトプット）と活動

① 成果 1： AIHD 内に設立された RCC の運営体制が確立される

活動： RCC 運営タスクフォース・協議委員会の設置・開催、年間活動計画・予算の作成、AIHD 職員の能力向上計画作成・実施

<指標・目標値>

- ・ 運営体制の整備度（プロジェクト開始後作成する評価項目リストをもとに判定）

② 成果 2 : 研修事業の運営体制が構築され、カリキュラム・教材が、周辺 4 カ国のニーズを反映して開発され、改善される

活動 : 研修のニーズ調査、研修ガイドライン・カリキュラム・教材の開発・改善、研修の実施 (研修講師のための研修 : TOT)、研修成果のモニタリング・評価

<指標・目標値>

- ・ 研修受講者およびその所属機関が研修運営・カリキュラム・教材、研修成果に満足する

③ 成果 3 : タイと周辺 4 カ国におけるエイズ対策分野の人材、研究、活動事例に関する情報が収集され、適切にアップデートされ、周辺 4 カ国のカウンターパート機関、援助機関、AIHD 卒業生、その他の関係者に向けて発信される。

活動 : 情報の収集、人材、研究、活動事例に関するデータベースの構築と定期的なアップデート、ウェブ上のホームページの開設と管理、ニュースレターと年次報告の発信、その他のメディアを通じた RCC の情報と活動経験の発信

<指標・目標値>

- ・ データベースが構築され、四半期毎にアップデートされる
- ・ ウェブ上のホームページが開設され定期的にアップデートされる
- ・ 四半期毎のニュースレターと年次報告書が毎回 500 部発行される (電子配信を含む) (注 : 保健分野の広域案件の実績に基づく算定)

④ 成果 4 : 関係者間のネットワーク強化により、タイと周辺 4 カ国のエイズ対策分野の人材、情報、財源が動員され、より有効に活用される

活動 : 周辺 4 カ国でのフォーカルポイント設置、タイ国内外のエイズ対策分野の関係機関・人材 (AIHD 卒業生を含む) との ネットワーク強化、リソースパーソンの研修講師としての活用・仲介、周辺 4 カ国の関係機関・人材とのネットワーク強化、セミナー・評価ワークショップ等情報共有のための会合の開催

<指標・目標値>

- ・ 周辺 4 カ国にフォーカルポイントが置かれ、活用される
- ・ AIHD 卒業生がプロジェクトの行う研修の講師やフォーカルポイントとして活用される (各国最低 2 人)
- ・ 研修事業で活用される外部専門家の分野数・人数
- ・ タイ国内外の研修実施機関による研修事業の支援のために RCC が仲介する専門家の数

(3) 投入 (インプット)

① 日本側 (総額 2 億 8 千万円)

- ・ 専門家派遣
長期 : 3 名 (チーフ・アドバイザー / 地域協力、エイズ対策人材育成、業務調整)
- ・ 機材供与
コンピュータ、周辺機器、車両など
- ・ 研修員受入れ
1-2 人 / 3 年

- ・ 現地業務費
研修、その他の活動費（1カ国向けの研修費は JICA 負担、複数の国からの参加者を対象とした研修費用は JICA とタイ国際開発協力機構（TICA）との分担）

② タイ国側

- ・ カウンターパートの配置：職員 15 名（AIHD の他の業務との兼任を含む）（AIHD）
- ・ 施設：プロジェクト事務所、研修施設（AIHD）
- ・ プロジェクト活動費：研修費用の分担（TICA）

(4) 外部要因（満たされるべき外部条件）

① プロジェクト目標達成のための外部要因

- ・ プロジェクト期間中にタイ政府や援助機関のタイ周辺 4 カ国に対するエイズ対策への支援方針が大きく変わらない
- ・ 主な関係機関（タイ保健省、周辺 4 カ国のカウンターパート機関）の RCC への協力量針や体制が大きく変わらない

② 上位目標達成のための外部要因

- ・ 研修受講生が各国のカウンターパート機関によって適切に選定される
- ・ 研修受講生の多くが研修後もエイズ対策に関する研修を実施する立場にある
- ・ 周辺 4 カ国政府のエイズ対策分野での人材育成方針が大きく変わらない

5. 評価 5 項目による評価結果

以下の視点から評価した結果、協力の実施は適切と判断される。

(1) 妥当性

本プロジェクトは以下の理由から妥当性が高いと考えられる。

- ・ 本プロジェクトはわが国が ODA 大綱にかかげる地球規模で取り組むべき問題である「感染症対策」と「開発の進んだ途上国との連携による南南協力の推進および広域的な協力の推進」に合致するものであり、「エマージング・ドナー」を標榜し、特に周辺国への開発支援を推進しているタイ政府の政策を支援するものである。
- ・ AIHD は日本が設立を支援し、現在では国際的に人材育成機関として高く認知されている機関であり、エイズ対策分野についても調査・研究や研修事業を積極的に実施しつつある。AIHD はエイズ対策の人材育成機関として機能するための十分な基盤を持っている。
- ・ 地域内にすでに感染率の高い国（タイ、カンボジア、ミャンマー）が存在するため、国境を自由に越える HIV の感染拡大防止には、地域的に取り組むアプローチがより効果的であり、近隣各国が共通に抱える問題の対応が可能になることから、広域案件として実施する妥当性は高い。また、協力対象となるタイ周辺 4 カ国もタイの経験から学ぼうとしているように、これらの国々は言語・文化的に比較的類似した環境にあり、タイが培ってきたエイズ対策の知見は、周辺 4 カ国でのエイズ対策分野の人材育成に効率的・効果的に活用されるものと考えられる。
- ・ 本プロジェクトでは、周辺 4 カ国のエイズ対策分野の研修講師を担うものを主たる対象として研修を行う予定である。この方法により、各国のエイズ対策関係者へ効果的に研修成果が波及することが見込まれる。
- ・ 周辺 4 カ国からの参加者を対象にした人材育成事業がタイ政府機関や援助機関によって計画、実施されている。しかしながら、こうした事業の情報はまとまっておらず、セ

クター全体としてみた場合は必ずしも効率的でない。RCCがこうした情報を取りまとめ、発信することは、事業間の連携を推進し、セクター全体としての活動効率を向上させることに貢献すると思われる。

(2) 有効性

本プロジェクトは以下の理由から有効性が見込める。

- ・ プロジェクト目標である「RCCが機能している」状態を具体的に表す指標として、1) 他の機関からの財源により委託される研修の実施数と受講者の満足度、2) ホームページへのアクセスと登録者数、3) ニュースレター読者の満足度、が挙げられており、これらの指標は、RCCの運営能力強化(成果①)、研修プログラムの開発と実施を通じた改善(成果②)、情報データベースの構築と情報発信(成果③)、ネットワークの強化によるリソースの有効活用(成果④)によって、達成できると考えられる。
- ・ AIHDには十分な組織運営経験と研修事業実施の実績があり、比較的短期間にRCCの運営体制を構築できる可能性が高い。プロジェクト業務に中心的に関わる職員が、AIHD内の研修セクションや情報技術セクションなどを巻き込み、連携を図ることにより、本プロジェクトの活動が効率的・効果的に実施されるのみならず、安定した実施体制を構築できると考えられる。
- ・ プロジェクト目標を質・量的に計る指標が設定されており、また、RCC運営タスクフォースにより定期的なモニタリングが活動に組み込まれていることから、プロジェクト目標達成に対するAIHDの高いコミットメントが期待できる。
- ・ プロジェクト協力期間中を通じてタイ周辺4カ国においてエイズ対策の優先度が高いことが見込まれるため、外部要因である各国政府機関・援助機関のエイズ対策支援の継続は満たされる可能性が高い。もうひとつの外部要因であるタイ国内の協力機関、周辺対象国のカウンターパート機関・JICA事務所との協力については、RCC側からの積極的なコミュニケーションにより、条件が満たされる可能性が高い。

(3) 効率性

本プロジェクトは以下の理由から効率的な実施を見込むことができる。

- ・ RCCがすでに基盤のあるAIHD内に設立されることから、本プロジェクトの活動をAIHDの従来活動と連携させることで効率的な実施が可能である(例えば、RCCのウェブサイトとAIHDのウェブサイトに組み込む、など)。また、AIHDの人材、人的リソースとのネットワークを活用することにより、活動を効率的に行うことができる。
- ・ 本プロジェクトでは、AIHDの卒業生を含む外部人材とのネットワークを強化し、フォーカルポイント、講師、情報源として活動に最大限有効活用することにより、プロジェクト全体の効率を高めることができる。

(4) インパクト

本事業のインパクトは以下のように予想できる。

- ・ プロジェクト協力期間終了後も、タイ周辺4カ国におけるエイズ対策分野での人材育成に対するニーズが高いと予想されることから、RCCの活動が継続されればプロジェクト目標の達成が上位目標達成に貢献する可能性は高いと考えられる。
- ・ 本プロジェクトでは、周辺4カ国にフォーカルポイントを設置し、各国の関係者との情報交換を積極的に行い、またニーズにあわせて複数国向けの研修や国別研修を計画する等により、各国のニーズにあった研修事業の提供を行う。これにより、研修により提供される知識や技術が4カ国で広く普及され、社会経済面で広いインパクトを生むと期待

できる。

- ・ 本プロジェクトの成果が、今後のタイから周辺4カ国への支援に関する政策決定に影響を及ぼすことが考えられる。また、本プロジェクトから得られる教訓は、タイ政府とJICAを含む援助機関との連携による周辺国支援や南南協力の形成・実施にも生かされる。

(5) 自立発展性

以下の通り、本プロジェクトによる効果は、AIHDにより協力期間終了後も継続されると見込まれる。

- ・ AIHDはこれまでの運営実績、設備、人材、情報技術などの面で事業終了後もRCCを継続して運営する能力を備えているといえる。本プロジェクト協力期間終了後、RCCをAIHD内で同様に運営していくか、あるいは他の事業と融合させていくか等の組織・制度的な位置づけについては終了時に決定されることになっているが、現時点でAIHD側の当事者意識は高い。また、本プロジェクト終了半年前には、プロジェクトスタッフ1人をRCCの専任職員としてAIHDが雇用する予定であり、事業終了後に活動を維持する手立てが講じられている。
- ・ 本プロジェクトではタイで実施される複数国向けの研修にかかる費用をJICAとTICAとで分担する。プロジェクト開始当初からTICAの財政負担のコミットメントを得ており、協力期間終了後もタイが周辺国を支援する事業の一つとして支援が継続される可能性が高い。
- ・ タイ周辺4カ国においては、国際機関によるエイズ対策分野での支援は急速に増加、多様化しており、比較的活動資金が潤沢である。本プロジェクトではRCCの自立発展性向上のために、こうした援助機関からの研修受託を目指しており、援助機関とのネットワークの強化や広報活動の推進が活動に盛り込まれている。

6. 貧困・ジェンダー・環境等への配慮

各国のニーズにあった研修の提供により、RCCから提供された知識、技術が地域レベルで広く普及することが期待されており、特にハイリスクグループの感染拡大減少と、社会的弱者になりがちなHIV感染者とその家族のケアの向上に貢献すると考えられ、人間の安全保障の観点からも意義がある。

7. 過去の類似案件からの教訓の活用

過去案件の有無：有

タイを拠点とした保健医療分野の広域案件例からは、教訓として、各国のニーズに基づいた事業とすることの重要性、周辺国との人的・情報ネットワークの維持・強化のためのシステム確立の必要性、ウェブサイトへのアクセスが限られているターゲットグループへの適切な情報発信手段の選択の必要性、などが挙げられた。こうした教訓はAIHDの卒業生を活用した各国でのフォーカルポイントの設置など、本プロジェクトの形成に生かされている。

8. 今後の評価計画

- ・ 中間評価 2006年10月頃
- ・ 終了時評価 2007年10月頃
- ・ 事後評価 協力終了後3年後を目処に実施予定